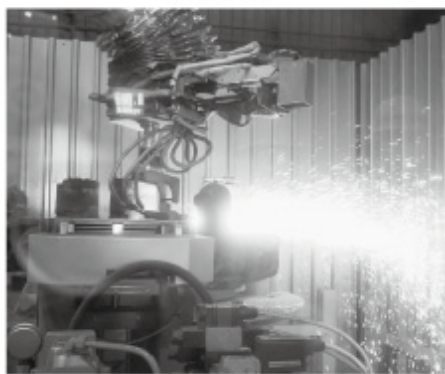


日本鑄造(川崎市川崎区)



日本鑄造(川崎市川崎区、鷺尾社長)は、同切断ロボットシステムは、熱練工の経験のほかに、鑄造工程の



自動押し湯切断ロボット

一つである押し湯切断工程で、水素エチレン混合ガス(ハイドロカット)を用いた自動押し湯切断ロボットを開発し、同社川崎工場で8月より本格稼働させている。



鷺尾社長

と知見をプログラム化したロボットシステムにより、熱練工以上の作業効率と切断精度を実現し、熱源にハイドロカットを用いることで、従来の都市ガスに比べ大幅なCO2排出削減が可能とした。

高精度・高能率化と環境負荷低減に貢献する自動押し湯切断ロボット



製品までで熱練工が得意な、ガウシンク作業が不要

品質にバラツキが少なく、リードタイムも長い。都市ガスを使ってロボットと台のターニングで環境負荷・エネルギー負荷が高いという課題もあった。同ロボットシステムを適用することで、前の作業台で交互に切断の課題を克服するとともに、ハイドロカット

自動押し湯切断ロボットの6輪多関節ロボットと2台のターニングで環境負荷・エネルギー負荷が高いという課題もあった。同ロボットシステムを適用することで、前の作業台で交互に切断の課題を克服するとともに、ハイドロカット

田路秀男取締役は、「真径300mmの筒状の押し湯を、一度で切断できるロボットシステムを開発した。そのために、自動化が難しい熱練工の技能や勘所を数値化する」とも、ハイドロカットの特性を生かせるよう、数々の実証を通して最適な切断